

## ランダース ウォール・ストリート・ジャーナル東京支局長との懇談会

開催日 : 2017年3月22日(水)

場所 : 経団連会館

来賓 : ピーター・ランダース ウォール・ストリート・ジャーナル東京支局長

経済広報センターはわが国経済界と主要国メディアとの関係強化に向けた活動の一環として、有力外国ジャーナリストとの意見交換を継続的に実施していくこととしている。3月22日、その第1回会合として、米ウォール・ストリート・ジャーナルのピーター・ランダース東京支局長を招いて懇談会を開催した。ランダース氏からは、トランプ政権をめぐる米国内の政治・社会状況等について説明があり、その後活発な意見交換が行われた。

ランダース氏は、発足後2ヶ月を迎えたトランプ政権の現状について、入国規制に関する大統領令が連邦地裁により差し止められたこと、ならびに閣僚以外の高官ポストの人選が滞っていることをあげ、政策遂行・政権運営に大きな課題を抱えていると指摘した。加えて3月中旬の時点で、不支持率が約6割に達するなど、トランプ大統領に対する米国民の支持は、歴代大統領のなかで最も低い水準にあると説明した。



トランプ大統領が貿易不均衡の問題を重視していることに関しては、米国民の一部には富の対外流出への懸念から、これを支持する声があると説明、対外経済政策が重要政策課題となるとの見方を示した。日米関係については、3月中旬にティラソン国務長官が初来日した際、日本を「この地域における最も重要な同盟国」と表現したことを紹介、二国間関係の発展に向けた期待を表明した。

以上